

# ゆりかご 園だより

2期(6~9月)のねらい  
からだづくり活動を通して  
子どもの仲間関係の質を高めよう  
2024.9.1



コロナがら類になた昨年 夏休み・冬休みに卒園児の“お手伝い”の受け入れを再開しました。他の感染症の状況も見ながらでしたので、希望者全員の卒園児に対応することはできませんでしたが、今年の夏休みは

徐々に今までのような受け入れができるようになりました。

今回、印象に残った二人の卒園児のエピソードを紹介します。

コロナの影響で“お手伝い”におと来ることができなかつた5年生のRくん、今年の夏休みにやっと実現しました。

乳児や幼児クラスの“先生のお手伝い”を体験中のRくんに「どう？ 疲れていけない？」と声をかけると「ホールで一緒にあそんだから疲れたあ〜」と、寄ってくる子一人ひとりの相手を全力でしたので相当疲れた様子でした。「そうか、ほどほどにね」と言うと、「ほどほどにしないとや、ていられない仕事だ、てわかった」と言っていました。Rくんにとって“お手伝い”が「疲れたけれど満足感のある良い経験」になつたのであれば嬉しいです。

もう一人は1年生のKちゃん。朝、事務室にいた私の所へ来て、「今日はよろしくお願ひします」と挨拶をしてくれました。その日、私は園外で会議があつたため「今日はお手伝いに来てくれてありがとう。Kちゃんが帰る時に先生はいけなからさようならが言えなけれど、事務室には誰かがいるので「帰ります」と言つて帰つてね」と伝えました。翌日職員にきくと、「今日はどうもありがとうございました。帰りますさようなら」と挨拶をして帰つたそうです。この話をきいて、新年度が始まつたばかりのことを思い出しました。駐車場オーナーの方が「こんなことがあつたんです」と教へてくれたのですが、「今まで駐車場を利用させてもらつてありがとうございました。卒園して小学生になります」とKちゃんとお父さんが挨拶に来たのだそうです。「まるで小さな紳士のようなだつた」と感激していました。きっと大人の援助があつて挨拶をしたのでしょうが、聞いた私も嬉しくなりました。

この卒園児の“お手伝い”。在園児たちは大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんにあそんでもらえるので大喜び。卒園児は「言うことをなかなか聞いてくれない」「くっついて離れない」と大変さも味わつたようですが、そんな大変さも楽しかつたよう。卒園児の成長を感じることができたので、これからも受け入れを続けたいけあと思ひました。